

農業・農村と

地域再生

Serial ②

秋津野ガルテンの グリーンツーリズム

わが国において農業や農村を観光の対象として体系的に捉えた「グリーンツーリズム」が全国的に普及していったのは1990年代からです。グリーンツーリズムはヨーロッパが発祥であるといわれていますが、観光が大衆に広まった高度経済成長期以後に発展したマスツーリズムに対峙する新しい観光の一形態として導入されました。それまでの外来型の観光開発、地域開発ではなく、農家や住民が主体的に取り組むソフト面が重視され、「緑豊かな農村地域の自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動」として国民の新たな余暇ニーズへの対応、農村活性化、都市と農村の共生・対流などを目的に行政主導で推進されてきました。背景には、農村の過疎・高齢化や農産物価格の低迷などから、新しい農業経営や内発的な地域づくりの模索がありました。

① 日本型のグリーンツーリズムは、西欧のように長期休暇の習慣がないため短期滞在、反復的訪問であること、② のんびりと余暇を楽しむの

ではなく、体験を重視すること、③ 農家や住民が参加する協議体が窓口になる地域経営型であることなどの特徴があり、食や農にかかわる様々なメニューがあります。

このようなグリーンツーリズムにコミュニティビジネスの手法で取り組んできたのが、和歌山県田辺市の上秋津地域です。2008年、有志の農家グループを中心に地域が合意形成を行い、上秋津小学校の旧校舎（廃校となった木造校舎）を整備し、「秋津野ガルテン」が開業しました。秋津野が運営を担っていますが、ユニークなのは、出資者を募集する際に、株数制限を付した議決権付きの地域内株式と議決権を制限した地域外株式を併用して資金調達を行い、コミュニティの住民の意思を事業に反映できるようにしていることです。現在、秋津野ガルテンはグリーンツーリズムの複合経営を行い、地域に雇用を生み、多くの来訪者を迎えて農村と都市の交流をつないでいます。事業の柱である農家レストランでは、おかあさん方が地元の食材を

使って田舎の料理を手作りして地産地消を進め、宿泊施設は、国内の観光客のほか熊野古道へ向かう外国人観光客の利用も増加してきました。また、体験工房では地域特産の果樹を用いたお菓子の製造・販売を行い、加工体験にも力を入れています。さらに完熟みかんのオーナー制度やワーキングホリデーの受入れを通じ、都市住民や学生達に農業経営の苦労やできた農産物が安全・安心であることを伝えていきます。2019年にはITオフィスを開設し、テレワークやワーケーションを行う企業人の受入れも行ってきました。最近では、スマート農業を取り入れた耕作放棄地の復活も試んでいます。

本学では、この地において学生と社会人が参加し、現場から学び「地域づくり」を考える講座を開講してきました。これからは、秋津野ガルテンを中心に地域再生に取り組む住民主体の挑戦を注目していきたいと思えます。

今忍び寄る日本庭園の危機とは何だ？

その魅力や面白さを知って、これからを考えよう！

わだ い 浪 切 サ ロ

第152回

- 話題提供者 桃山学院大学 教育学部 教授 片平 幸氏
- 開催日時 2023年12月20日(水) 19:00 ~ 20:30
- 参加費 無料
- 開催方法/申込 南海浪切ホールでの対面講演とオンライン配信。QRコードからお申込ください。



講演内容など詳細は「和歌山大学 岸和田サテライト」のホームページでご確認ください。
お問合せ 和歌山大学岸和田サテライト TEL / FAX : 072-433-0875

岸和田サテライト

検索